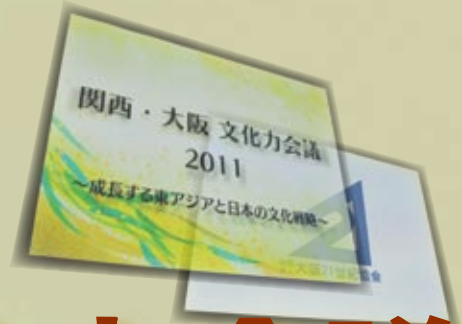


成長する東アジアと日本の文化戦略

近年、西欧諸国では都市再生と文化立都が競われ、また力強い成長を見せる東アジア諸国では、韓国のように国家戦略として文化を推進し、成果をあげている。一方、日本の国家予算に占める文化の比率はわずか0.13%で、フランス(0.86%)や韓国(0.93%)に比べ極めて低い。関西の自治体においても文化予算が切り詰められ、地域の個性が失われつつある。こうした状況で、日本はいかにして文化力を高めていけばよいのか。中国の著しい成長や韓国の力強い文化戦略を参考にしつつ、その方策を探った。



関西・大阪文化力会議 2011

2011.1.18 大阪国際会議場

主催：財団法人大阪 21 世紀協会
共催：大阪国際フォーラム
協賛：株式会社大阪国際会議場
後援：社団法人関西経済連合会
大阪商工会議所
社団法人関西経済同友会



文化力で真の情報源たる国へ!

大阪21世紀協会会長 熊谷信昭



今は、インターネットによってさまざまな情報を得ることができます。しかし、インターネットのデータベースから得られる情報は、すでに公開された情報、すなわちデータに過ぎず、決してインフォメーションソース(情報源)とは呼ばれません。国や地域が活性化するためには、真の意味での情報源にならなければなりません。そのためには、真似やまがい物ではない個性あるユニークな学術、技術、芸術、ファッション、娯楽等々の文化を創出するとともに、伝統芸能や歴史遺産などを大切に維持・継承していくことが必要です。そうすることで直接触れたり見たりしないと得られない、真の情報源になるわけです。文化はお金で買えるものではありませんが、お金をかけずに文化を創出したり、継承・維持していくこともできません。国や地域が末永く繁栄し、世界から敬愛されるような名誉ある国や地域となるためには、文化立国、文化立都を目指さなければならないと思っています。